

5 / 20 sat. 広島 Live space Reed

カネヨリマサル

いまを生きる——
カネヨリマサルが鳴らす情熱の音

2023年5月20日。広島では、G7広島サミットが開催中。交通規制の影響も大きく、街に繰り出す人が少ない、非日常的な光景が広がっていた。しかし、それとは対照的に、ライブ会場であるReedは、10代～20代前半の若く、エネルギー溢れる観客を中心に満員。今夜は、若年層を中心に支持を集めるバンド、カネヨリマサルのライブが行われる。「いまを生きるツアー」とタイトルを掲げたツアーは、早々に全公演ソールドアウト。広島公演はセミファイナルだ。

開演前から、期待に胸を膨らませる人々によって、会場内にはすでに熱を帯びた空気が漂っていた。定刻になり、まずステージに上がったのは、大阪発3ピースバンド ammo。ドラムを合図に『ハート・フル』でライブスタート。1曲目から、一斉に観客全員の拳が上がる。「from 大阪、ammoです!」。一言挨拶を挟み、すぐに2曲目の『未開封』へ。ライブ初披露となった新曲『sing alone good』を含む5曲を、シームレスに音を止めることなく響かせた。MCでは、「対バン、特に2マンは大切にしています。ゲストバンドだと思ってこのライブに出ていません。今日は戦いに来ました」とカネヨリマサルに宣戦布告。この言葉で、より一層、観客のボルテージは上昇。その後、温もりと切なさが混合する『CAUTION』を演奏し、会場の空気に緩急をつけながら、ラスト『歌種』までギアを上げ続ける熱演だった。

ammoによってもたらされた熱気が充満する中、転換を挟んで今夜のメインアクト、カネヨリマサルが登場。ちとせみな (Vo & Gt)、いしはらめい (Ba & Cho)、もりもとさな (Dr & Cho) の3人に、サポートギターを加えた4人がステージの定

位置に着くと「準備できてる?」とフロアに問いかける。すでに体の温まっている観客は大きな声で応える。それを合図に最新曲の『グッドバイ』でライブスタート。序盤から、キャッチーなメロディを奏でるラブソングを会場に響かせると、続いて2曲目もリズムカルなナンバー『ユースオプトゥエンティ』を披露しMCへ。「今日の広島は、ツアーのセミファイナル。対バン編は、ファイナルです。すでにフロアもステージもアツアツだね!」とこの日の会場の熱量を表現。「今日も大切にライブやって帰ります!」と、3曲目にはイントロのベースラインが輝く『ゲームオーバー』、さらに会場全員でジャンプした『さくら色』と続け、ポップでロックなカネヨリマサルサウンドで、より色濃くフロアを染めていった。

大きな拍手に包まれる中、ポップな雰囲気をも侵食するように、怪しげな音が鳴る。次に披露されたのは、今年1月にリリースされたメジャーデビューアルバム『わたしのノクターン』でも異彩を放つ曲『I was』。メンバーがハードロックやサイケロックに夢中だった時期に制作したという曲で、序盤で作られた空気を変えさせるアクセントになっていた。続いて、「本当にアツいね! 広島!」と汗を拭いながらのMCを挟み、ここまで上昇し続けた熱に、冷たい風を送るように『スーパームーン』を演奏。「クールダウンできた?」とちとせみなが観客に呼びかけ、「次の曲は私が失恋をして苦しくて仕方がなかった時の曲です」と語り、『もしも』を届ける。まるで日記を覗き見しているような、正直な想いが綴られた1曲だ。観客の多くは、先ほどまで上げていた手を胸に当て、じっくりと受け止めていた。「9年バンドやっていて、良いことばかりじゃなかったけど、やってきて良かったって思える景色をありがとう! 傷ついてへこんだ心の部分は音楽で埋める。みんなが明日を生きられるように音楽やります!」と「いまを生きる」すべての

SET LIST

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 《ammo》 | 《カネヨリマサル》 |
| 01. ハート・フル | 01. グッドバイ |
| 02. 未開封 | 02. ユースオプトゥエンティ |
| 03. 星とオレンジ | 03. ゲームオーバー |
| 04. sing alone good | 04. さくら色 |
| 05. 不気味ちゃん | 05. I was |
| 06. CAUTION | 06. スーパームーン |
| 07. フロントライン | 07. もしも |
| 08. 突風 | 08. 26 |
| 09. これっきり | 09. 二人 |
| 10. ハニートースト | 10. ガールズコース |
| 11. 包まれる | 11. 息をしているよ |
| 12. 歌種 | |

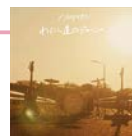


人へ、メッセージと共に『息をしているよ』を鳴らし本編を終了、その後アンコール2曲を披露し、この日のライブを締めくくった。終演後会場を後にする人たちの表情はとても晴れやかなものだった。

音楽を信じ、愛してやまない人たちの心の回復場所であるライブハウスという空間で、まさに「いまを生きる」ということを改めてカネヨリマサルが教えてくれ、実感させてくれた、そんなかけがえのない夜だった。

Digital Single

「わたし達の
ジャーニー」
out now!!



WILD BUNCH FEST. 2023

9月16日(土) 山口きらら博記念公園

「太陽に近づこうツアー」

10月20日(金) 広島セカンド・クラッチ